ドイツ語文庫

關口存男監修

監修指導方針

關口存男

責任監修者として，本文庫の趣旨とする所を端的に述べます。

ドイツ語を一年ばかりやつて，名詞の變化，動詞の變化と云つたようなものは大體見當がつき，單語も Baum とか stehen とか weil とか ich とか云つたようなものは相當量頭の中に蓄積され，テキストを眺めると云うと，『ちよいちよい解る單語が出て來る』（というのはつまり例えば ich など）……斯う云う程度の人がかなり多いと思います。

それからまた，それよりは少し進歩した人で，單語の量も相當覺えている，簡單な文章ならば大抵意味は取れる，文法上の事では相當缺陷を感じてはいるが，まさか名詞の變化からやり直すほどの必要もない……けれども，そんなら何が讀めるかとなると，實のところなんにも碌に讀めない，どの本を手に取つて見ても，結局自分の今の程度にはむつかし過ぎる，結局もう少し澤山最も普通な單語を覺え込んだ上でなければ，抑々獨力で何か原文を讀もうとするのが間違つている……と云つたような程度，これが即ち元來の意味に於ける中級ですが，こうした程度にいる人も相當多いだろうと思います。

そこで問題は，こうした程度にいる人達は一たいどんな方法で勉强して行くのが最も有利であるかです。單語集でも買つて先づ單語から暗記してかかる可きでしようか？むつかしい原文と四つに組んで，最初の一頁を凝と眺めたまま一箇月ばかり神經戰を挑む可きでしようか？それとも原文などは元の書棚に直して，もう一度講座か文法書か何かひろげて，改めてわかり切つた事からやり直す可きでしようか？

私は，そういう行き方は，意氣は壯なりと雖も，結局は時間ばかり潰えて得る所は案外尠いと思います。それよりはもつと自然な方法がある筈です。

その自然な方法というのは，實は何でもない極く馬鹿々々しい方法で，あんまり當り前すぎて改めて主張するのがむしろ滑稽な位いですが，それは即ち『自分の現在の學力に相當するやさしいテキストをなるべく澤山讀むこと』です。むつかしいテキストを一年かかつて五十頁讀むよりは，やさしいテキストを三百頁も四百頁も讀破して，よく出て來るあたりまえの月並文句に何遍もお目に掛り，普通の單語になるべく頻繁に接した方が，だいいち面白くもあり，進歩感が味わえ，調子が機みます。調子が機み出せば其處には必ず無意識裡に底力というものが生じ，實力というものが生れます。劍術でも段違いの相手に上手に叩かれて參つていたのでは，たとえ天下一の名師に就いていても大した進歩はしません。それよりは寧ろ圖に乘つて弱い奴等を片つ端から叩いて廻つているうちに，氣持に餘裕が生じ，劍が掌に入り，全身の筋肉が潑剌として來て，腕はいつの間にか冴えて來るものです。語學も然り。容易なテキストを數多く讀破すれば，單語などは覺えようと思わなくても自然と覺わります。「覺えた」單語は大した物の役には立ちません，「覺わつた」單語にして初めて用をなします。文法なども，わざわざ覺えた規則は割合役に立たない，實地で何遍も出て來たことはおのずと見當がつくようになります。そのためには澤山讀まなくてはなりません。澤山讀むためには容易なテキストが色々と澤山ある事が必要です。

問題はつまり此處です。ＡＢＣから這入つて一通り初步知識を習得させる入門書とか講座とか云つたようなものは，これは何なら日本に一種あれば事足ります。次へ次へと色んな入門書が現われて，門ばかり賑やかになると云うのが抑々少しおかしな位です。問題はむしろその次ではありますまいか？ＡＢＣや名詞の變化なんてものは，むしろ誰にでもわかるが，その次あたりに本當に指導を要する範圍が控えているのではないでしようか？ドイツ語は取つ附きがむつかしいと云うのは嘘で，むしろ取つ附くのは誰でも取つ附けるが，扨て取つ附いた後で附いて行けるか行けないかと云う所に本當の困難があるのではないでしようか？

また，やり方によつては面白いほど眼に立つて進歩するのも，ちようど只今述べているような所にいる人達なのではありますまいか？

以上のような見地から，目下のドイツ語出版界を觀ますと，どこにも此の點に主力を注いでいる計畫がなく，此の最も重要な所がストンと抜けて大きな穴がガランと開いています。あんまり思い切つて抜けているものだから誰も氣がつかないらしい。

本文庫の使命は此處にあります。とにかく讀み易くてどんどん捗るものをなるべく數多く提供する，しかも初步文法を到る處で復習する如く仕組む，そして何よりもまず『一番あたり前な單語』が種々な結合に於て何遍も出て來るようにする……同時に，初步の終りから高級の初めに至るまでの凡ゆる段階が一應網羅されるように計畫する……これが本文庫の指導方針です。

MEIN DEUTSCH

獨文讀破力の涵養は此の文庫によつて！

1	關口存男 譯註	獨逸古典文學	ファオスト抄	定價 ¥ 70	〒 ¥8
2	末吉 寛 〃	科學論文	原子論	定價 ¥ 60	〒 ¥8
3	小西長明 〃	グリム童話	灰かぶり	定價 ¥100	〒 ¥8
4	荒木茂雄 〃	アンデルセン童話	錫の兵隊	定價 ¥ 50	〒 ¥8
5	大野勇二 〃	ユーモア小說	密輸入者の話	定價 ¥ 60	〒 ¥8

以上・本月刊行・發賣いたしました。

本文庫のひとつびとつが各種各樣の面白さの裡に語學力を增進して，限りなき悅びに，自ら快心の笑みを洩らされるであろうと確信します。　（三修社）